

令和8年度

徳島市津田小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- よくわかる授業を展開し、基礎・基本の定着を図る。
- 表現力・コミュニケーション能力を育てる授業の充実を図る。

校長

麻植 稔夫

学力向上推進員

葉田 佳奈

【各校の取組状況の把握について】

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進する。

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○簡単にできるものや興味のある課題には意欲的に取り組む姿が見られる。</p> <p>○読書に興味をもち、素直に取り組む児童が多い。自分の興味のある本を選び、読書に取り組む児童が増えている。</p> <p>●学力の二極化が進んでいる。基礎・基本の定着に差がある。中間層が少ない。</p> <p>●語彙力に課題が見られる。</p>	<p>・該当学年の漢字の読み書きや整数の四則計算等、基礎・基本の内容については、70%以上を正答することができる。</p> <p>・ドリルやタブレット端末等を使用し、自分の力に合った課題に取り組むことができる。</p> <p>・語彙力を活用し、読み取ったり、聞き取ったりする活動に根気強く取り組むことができる。</p>	<p>・朝の活動や授業開始5分を、ミニ漢字テストや計算問題等の基礎・基本に活用する。</p> <p>・課題に継続して取り組めるよう、課題をスモールステップで構成する。</p> <p>・タブレット端末等を活用し、漢字の読み書きや四則計算等の基礎・基本の内容を反復して取り組ませる。</p> <p>・読み聞かせや読書、視写、聴写などの活動を取り入れ、言語に触れる機会を積極的に設け、児童の語彙力を高める。</p> <p>・語彙力を高めるために、国語辞典や漢字辞典を積極的に活用したり、図書館と連携し、図書を充実させたりする。</p>			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○発表の仕方の例を示すことで自分の思いを伝えることができる。</p> <p>○自分の意見や考えをノートに書いたり、タブレット端末等を使ってプレゼンを作って発表したりすることができる。</p> <p>●自分の思いを伝えることに苦手意識がある。言いたい思いはあるが、どうすればよいかわからない。そのため、自信がなく声が小さい。</p> <p>●自分の考えの理由や根拠を明確にしなが話したり、相手の話を正確に聞き取ったりすることに苦手な傾向がある。</p> <p>●他者の意見を最後まで聞き、自分の考えに反映させたり、反論を述べたりすることができない児童が多い。</p>	<p>・自分の考えをもち、理由や根拠を明確にしなが話したり、伝えたりすることができる。</p> <p>・相手の話を正確に聞き取ることができる。そのうえで、多様な意見を尊重することができる。</p> <p>・他者の意見を自分の考えに反映させたり、反論したりして、話し合うことができる。</p>	<p>・教員間で「つだっこナビ」についての共通理解を図る。</p> <p>・「つだっこナビ」の積極的な活用により、各学年に応じた話し方・聞き方を習得させる。</p> <p>・授業の中で様々な表現方法を体験させながら、簡単な内容や活動から取り組ませ、コミュニケーションを図る機会を増やす。</p> <p>・聞くことに重点を置き、質問や場の工夫を取り入れ、児童が意欲的に聞こうとする機会を継続的に設ける。</p>			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○新しい課題や体験的活動など、興味のあることには意欲的に取り組むことができる。</p> <p>●今までに学習したことを次の課題や生活に生かそうとする態度が育っていない児童がいる。</p> <p>●学習意欲の個人差が大きい。学年が上がるにつれて、自尊心や自己有能感が低くなる傾向があり、学習意欲にも影響が見られる。</p>	<p>・めあてをもって主体的に取り組む、自分なりの方法で課題解決できる力を身に付ける。</p> <p>・自分の学習を振り返り、失敗したことや今までに学んだことを、次の学習や生活に活かすことができる。</p> <p>・授業中に、自分の考えや意見を進んで発表する児童が70%以上になる。</p>	<p>・ポジティブ行動支援を意識し、児童のできることを認め、伸ばしていくとともに、主体的な学習を進めるため、教材・教具の開発や、ICTの活用、教師の指導法を工夫する。</p> <p>・めあてを明確にした授業、児童の興味・関心や問題解決の必要性を踏まえた授業を展開する。</p> <p>・安心感と規律を両立した学級づくりを進めるとともに、学習に集中できる環境の整備に努める。</p>			